

# 世界の「こんにちは」と文字／ ローマ字

学習時数●六時間(伝 六)

## 目標

◎ローマ字に興味をもち、簡単な単語を読んだり書いたりする。

## 身につけたい力

伝……………日常使われている簡単な単語について、ローマ字で表記されたものを読み、またローマ字で書く。

(1) ウ(ア)

## 指導計画例

### 第1時

教科書P 94・95を見て、それぞれの国の言葉を声に出して読み、世界にはさまざまな国と言葉があることを知る。

関 さまざまな世界のあいさつ言葉に興味をもち、読んでいる。

### 第2時

簡単な単語についてローマ字で表記されたものを読み、またローマ字で書く。

関 外国の文字で日本の言葉を書き表せることに興味をもち、

読んだり書いたりしようとしている。

言 簡単な単語についてローマ字を読んだり、ローマ字で書いたりしている。

### 第5時

自分の名前と住所を書く練習をし、名刺を作る。

言 自分の名前と住所をローマ字で書くことに意欲をもち、名

刺を作っている。

### 6時

※学習材例として用意した「ローマ字」は、現行教科書4上に掲載されている教材を、3年生用に加筆したものです。

現行の学習指導書(4上)に、指導案が掲載されています。

また、本学習材例を活用いただく場合、4年配当漢字「単」を、ここで学習することも可能です。

## 指導の展開例

1年

2年

3年

4年

5年

6年

## 第1次（1時）

## 目標

世界にはさまざまな国と言葉があることを知る。

時 学習活動

1

①世界の国々では、「こんにちは」というあいさつをどのように言うのか、知っているものを発表する。

②教科書P94・95を見て、いろいろな国の「こんにちは」を声に出して読んでみる。

③気づいたことを発表する。

世界のことに関心をもつて

●どんな国を知っているか発表し、それらの国で「こんにちは」をどういうのか考える。世界地図や地球儀を用意して、その国がどこにあるのか見つけながら、その国の「こんにちは」を声に出して言ってみる。

声に出して世界の「こんにちは」を楽しむ

●教師が「ボンジア」と言ったら「ボンジア」と同じように言葉を返す。

二人一組で向かい合って、同じように「ニーハオ」「ニーハオ」のようにあいさつする。

教室を歩いて出会った人とじゃんけんをして、勝ったほうが先にどこかの国の言葉であいさつする。「ジャンボ」と言われたら、負けたほうは「ジャンボ」と言葉を返すようにする。

ここでは正確な発音は気にせず、楽しめるとよい。

●「ありがとう」でも同じようにやってみる。

日本↓ありがとう アメリカ↓サンキュー フランス↓メルシー イタリア↓グラツツエ  
韓国↓カムサハムニダ ドイツ語↓ダンケシェーン ケニア↓アサンテ  
ロシア↓スパシーバー 中国↓シエシエ インド↓ダンニヤワード  
スペイン↓グラシアス ポルトガル↓オブリガード インド↓ワンダナムル

言葉でつながることの楽しさ、不思議さ

●世界にはたくさんさんの国があって、たくさんさんの民族がたくさんさんの言語をもって生活していることに気づかせる。知らない言葉を獲得することの楽しさを感じ取らせ、ローマ字に対する興味へとつなげていきたい。

評価

関 さまざまな世界のあいさつ言葉に興味をもち、読んでいる。〔観察〕

## 第2次(2~4時)

## 目標

簡単な単語についてローマ字で表記されたものを読んだり、書いたりすることができる。

時	学習活動
2	①「ローマ字」が身の回りのいろいろなところで使われているのわけを考え、話し合う。 ②ローマ字表を見て気づいたことを話し合う。
3	①「ローマ字表」を利用して五十音の書き方を練習する。
4	①ローマ字の特別な書き表し方を知り、声に出して読んだり書いたりする。

## ローマ字に興味をもち、読み慣れる

●身の回りでどんなローマ字が使われているか事前に資料を集めておき、ローマ字への興味をもたせる。

●次の二点をしっかりとらえさせる。

・縦列には、それぞれ母音一字が必ず入っていること。

・横列については、カ行には「k」、サ行には「s」と、同じ一字が使われていること。

●ローマ字の特色をつかみながら、五十音をひとつとおり読めるように練習する。

## ローマ字に親しみ、書き慣れる

●五十音をひとつとおり書けるようにするために、母音からアルファベットの練習をする。

・「ア行(母音)」の書き方を練習する。

・「カ行」から「ん」までの書き方を練習する。

・他の行「が、ざ、だ、ば、ぱ」の書き方の練習をする。

## ローマ字に慣れ、読み書きの力をつける

●特別な書き表し方の決まりについて学習し、読み書きの技能を高める。

・拗音を表すときは、真ん中に「y」が入り、三文字で一音になることを理解する。

・伸ばす音、つまる音、はねる音についても、書いたり声に出して読んだりして練習する。

・ローマ字には大文字と小文字があることを知り、どういう場合に大文字を使うか理解する。

## 評価

関 外国の文字で日本の言葉を書き表せることに興味をもち、読んだり書いたりしようとしている。「ノート・観察」

言 簡単な単語についてローマ字を読んだり、ローマ字で書いたりしている。

「ノート・観察」

## 第3次(5・6時)

## 目標

自分の名前と住所を書く練習をして、名刺を作ることができる。

時	学習活動
5	①へボン式をつづり方を知る。 ②自分の名刺を作る。
6	①ローマ字しりとりやローマ字など など、タイピングゲームなどで楽 しみながらローマ字を確実に身に つける。

(表) などの  
ぞの問題(ヒ  
ント)をロー  
マ字で書く

(裏)  
答えを書く

へボン式をつづり方を知り、ローマ字学習を深める

- ローマ字には、訓令式のほかにへボン式があることを理解させる。実際には、へボン式で表記されているものが多いことに気づかせ、ローマ字に対する理解を深める。
- 書き換えのできるものを探し、訓令式とへボン式の両方で書き表してみる。
- コンピュータを使ったローマ字の名刺作り
- ワークシートに「名前」「学校名」「学年 組」「住所」を書いてみる。
- ワークシートを見ながら、キーボードで入力する。
  - ・名刺を作るソフトにはいろいろなものがある。子どもでも手軽にきれいに仕上がるので、ぜひ活用したい。

遊び感覚でローマ字を使いながら、着実に身につける

- 二人一組になって、しりとりをして遊ぶ。黒板を使って、グループ対抗のローマ字しりとりを行うと、ゲーム感覚で盛り上がり、同時に書き順や間違いやすい言葉などをクラス全体で確認することができる。
- コンピュータを使える環境にある場合には、タイピングソフト(無料のものをダウンロードすることも可能)などを使うと夢中になって取り組む。
- 「ローマ字なぞなぞ」など、カードの表面に問題を、裏面に答えをすべてローマ字で書くようにしてクイズを作り、グループでなぞなぞ大会をしても楽しい。

## 評価

言 自分の名前と住所をローマ字で書くことに意欲をもち、名刺を作っている。

〔名刺・観察〕

## ローマ字を指導するにあたって

本教材では、まずローマ字にふれ、表を見ることで基本的な書き方を学ぶ。まずは、訓令式の表記で、子音と母音の結合という基本的な成り立ちをしっかりと定着させる必要がある。なお、アルファベット一字一字の書き方についてもひととりの指導が必要である。この段階で、ローマ字は英語などの言葉と同一視されやすいが、基本的に表記法なのであって、あくまでも日本語の表し方であるということについても説明しておきたい。

まず、表を学習して、ローマ字の音素文字に慣れることから始める。「あめ、かき」「なみ、にわ」などの対応をもとに、母音、子音の違いを確かめる活動などができるであろう。

次に、拗音、長音、促音、撥音などの書き方についておさえる。教室の活動では、練習をしっかりと繰り返し、慣れることが必要である。また、大文字についても学習し、固有名詞に使うことなどを学習する。

最後に、ヘボン式について学ぶほか、コンピュータ入力についても学習する。ヘボン式は、実際の音を意識して表記することになっており、例えば、サ行をローマ字で表す場合、実際、イ段の音は「シ」となっていて、「スイ」とはなっていない。そこで、「shi」のように表記するといった点をおさえておきたい。訓令式は、例えばサ行はすべて「s」で表すなど、音の並び方を理論的に整理したものであり、その意味では体系的である。

練習においては、指導者は、基本的に日本語の音韻体系を表すという特質を理解しておく必要がある。ローマ字は基本的に日本語の音の体系に対応しているので、外来語の音の中には表せないものがある。例えば、「ツイ」などはローマ字では通常表せない。

## 「ti」と「chi」、「si」と「shi」の使い分け

教科書で用いているローマ字のつづり方は、「ローマ字のつづり方」(昭29 内閣告示)に従っている。この告示には、第1表、第2表が示されており、「まえがき」に次のように述べられている。

1 一般に国語を書き表す場合は、第1表に掲げたつづり方によるものとする。

2 国際的關係その他従来の慣習をにわかに改めがたい事情にある場合に限り、第2表に掲げたつづり方によってもさしつかえない。

「ti」「si」は第1表のつづり方、「chi」「shi」は第2表のつづり方である。

日本語をローマ字で書き表そうとする試みは古くからあり、明治以降も、「標準式(ヘボン式)」「日本式」「訓令式」などのつづり方が、一般社会で広く行われてきた。義務教育の中のローマ字教育は昭和二十二年に行われるようになったが、そのときは、この三方式が自由に取上げられていた。このような実状に対して、つづり方の単一化を図り告示されたのが、「ローマ字のつづり方」である。前述の「まえがき」には、このような歴史的背景がある。

そこで、「chi」「shi」などの使われる例だが、J Rの駅名表や船舶の名前などに見受けられる。

TAMACHI SHINAGAWA (駅名)  
NATSUSHIMA (船名)